

焦点

期待される貿易・物流拠点の形成

～酒田港に新港開港 新岸壁 + 国際ターミナル完成～

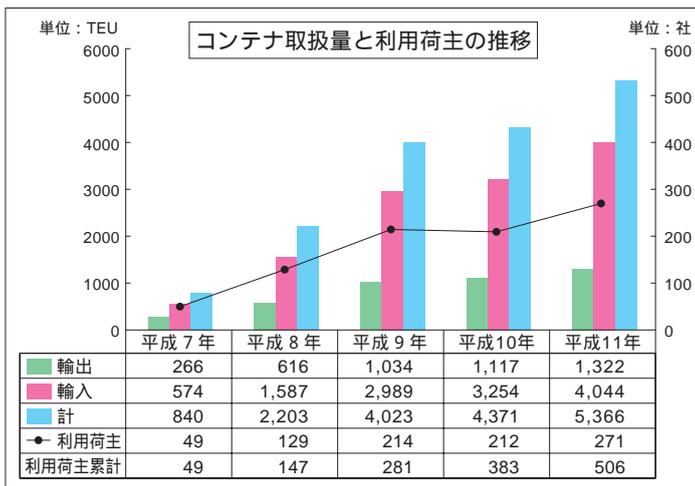
株式会社 荘銀総合研究所 主任研究員 熊本 均

酒田港国際ターミナルの概要

本年七月に、平成五年度から整備が進められてきた「酒田港国際ターミナル」が暫定的に完成し、運用が開始された。

酒田港は昭和二十六年に重要港湾に指定され、昭和四十五年には酒田北港の建設に着手し、昭和五十八年には五万ト級の古湊岸壁が完成するなど、国際港としての機能を整えてきた。

平成七年、世界有数のコンテナ取扱量を誇る韓国・釜山港との間に定期国際コンテナ航路が開設され、平成十年からは週二便に増便されるなど、中国、韓国、東南アジア諸国と



TEU：20フィート型コンテナ換算個数

の貨物量が着実に増加している。

コンテナ貨物量の増加に対応して、国際貿易専用のコンテナ取扱施設を整備したのが一般的な「酒田港国際ターミナル」である。

・コンテナヤード

従来、木材と併用していた古湊岸壁から移設して、四・二五^{メートル}（百七十^{メートル}×二百五十^{メートル}）の専用コンテナヤードが整備された。

・多目的岸壁

長さ二百八十^{メートル}、幅五十^{メートル}、水深十^{メートル}で暫定供用開始され、三万ト級の船舶が接岸可能である。将来的には水深十四^{メートル}に整備される計画で五万ト級の船舶の接岸が可能となる。

・ガントリークレーン

コンテナ船にコンテナを積み降ろしする装置であるクレーンは、一時間当たり約三十個のコンテナを処理する能力を備えており、従来のクレーンに比べ約二・五倍のスピードアップが図られた。

・コンテナ Freight Station

通関業務や混載貨物の仕分けを行う施設で、面積は千四百平方^{メートル}である。

これらの諸施設・設備は、東北地方の同規模の重要港湾（例えば、秋田県の秋田港、新潟県の直江津港、福島県の小名浜港）と比較しても、同等もしくはそれ以上の機能を有している。その意味で、山形県にもようやく本格的な国際貿易港が新たに誕生したと言えるだろう。



酒田港国際ターミナルの全景

「酒田港国際ターミナル」の整備によってハードウェアの整備は相当程度伸展したわけであるが、これで問題がすべて解決したわけではない。

山形県は、電気・電子機器等を中心に東北地方でも有数の輸出額の実績があるが、山形県が平成十一年度の実施した「酒田港における東南アジア航路開設可能性調査」によれば、山形県内の荷主企業のうち酒田港を利用して

いる割合は、輸出が約一割、輸入でも約二割に満たない水準に留まっているのが実状である。

大部分の荷主企業が、横浜港や東京港などの京浜地区の港湾を利用しているのである。また、京浜地区の港湾以外にも新潟港や仙台港などの酒田港と競合する港湾を利用しているケースも多い。

当然、荷主企業個々の事情によって、貿易相手国・地域までの直行航路の有無、便数、輸送時間、あるいは輸送コストなどの問題から、酒田港を利用することが現実的ではない場合も多々ある。また、従来、酒田港における国際コンテナ取扱機能が十分ではなかったことにより、酒田港利用を敬遠する荷主企業もあつたはずである。

山形県内の荷主企業にとっては、自県の港湾を利用して貿易・物流を行うことは、輸送コスト・時間の削減を通じて競争力を養う好機であるのだから、従来、その機会が得られなかつたとすれば、県内荷主企業にとっては、貿易・物流上の大きなハンディを負つていたと言える。

新港開港を契機に酒田港周辺に

貿易・物流拠点の形成を

酒田港と韓国・釜山港間の定期国際コンテナ航路におけるコンテナ取扱量、利用荷主数は航路開設以来順調な伸びを示しており、この面からみれば、酒田港を利用するメリットは徐々に荷主企業に認められつつあると思わ

れる。

また、平成十三年中には、東北横断自動車道酒田線の全線開通、「酒田みなと」インターチェンジが整備される。これにより酒田港と山形と仙台間の陸上輸送時間がさらに短縮される。

酒田港周辺は、太平洋側と日本海側を結ぶ最短ルートとして物流の大動脈となるポテンシャルを有するこのルートの陸上高速交通網と港湾・海上交通が結節する物流の要衝と成り得るのである。

新港が開港した今こそ、酒田港周辺が山形県はもとより東北地方全体の貿易・物流拠点としての役割を果たすべき絶好の機会が到来したと言えるよう。

熊本 均

1960年山形県酒田市出身
 (株)荘銀総合研究所 研究開発部
 主任研究員
 北海道大学経済学部を卒業後、
 (株)富士銀行、(株)たくぎん総合研究所を経て、
 1998年4月より現職。

問い合わせ先
 (株)荘銀総合研究所
 TEL 023-626-9017 FAX 023-626-9038
 E-mail kumamoto@sfsi.co.jp